

【菜の花を植えて、阿蘇観光を、農業と共に活性化しましょう】

阿蘇五岳を中心に、外輪山から見た阿蘇谷の風景は素晴らしい。その阿蘇谷は、寒冷地のため夏場だけの一毛作である。その田畑に、春一面、菜の花（を中心とする花）を咲かせる。そうすると、以下に掲げた利点により、農業と商業を併せた観光産業にすることが出来る。

近年、田植えの時期が早まり、おいしいと評判の阿蘇米の味がおちているようだ。そこで、菜の花を植えることにより、5月下旬に田植えをすることで、夏の暑い日差しを受けて、おいしい阿蘇米になる。

春、阿蘇谷一面に、菜の花が咲いているのを、外輪山から見た時、今まで見たことのない風景が目映えるだろう。田畑の広さが違うので、色違いの花を植え、絵を描けば、毎年違った風景が見られ、造る側も見る側も、楽しみである。一日中見ている飽きない、新しい阿蘇観光熊本が出来上がることだろう。

利点として、

菜の花を植える事で、阿蘇の景観が変わる。

養蜂業、蜂蜜がとれてお土産になる。

菜の花を植えて、田んぼに敷きこむことにより、美味しい米が出来る。(ブランド米) 減反で米を作らない田んぼは、菜種をとり、安心、安全な菜種油がとれて、お土産になる。

花の時期は、観光客が大勢阿蘇に来る。農家の人は民宿をしたらどうだろう。阿蘇の赤牛、牛乳、高菜、ごはんなど食べてもらう。

田んぼと外輪山の放場を有料駐車場にする。

遊覧馬車などで菜の花畑の中をゆっくり散歩する。

レストランやホテルなど菜の花の料理など出してもらいたい。

観光客の熊本に居る時間が長くなれば、観光収入が増す。

観光を取り入れた農業で、生活が安定するなら、阿蘇の農業の未来は明るい。

課題として、

阿蘇は寒いので、開花、田植えなど、植栽サイクルを慎重に選ぶ必要がある。

菜の花の種蒔きと稲刈りの時期が重なりそうで、刈り取り機械の使い方に工夫がいりそう。

一心業の大桜との花回廊もできる。この阿蘇の菜の花観光が上手くいけば、次は天草だ。天草は8月には稲刈りが終わる。終わった田んぼに、コスモスを植える。春は阿蘇の菜の花、秋は天草のコスモスで、花の観光熊本が出来上がる。人は皆、美味しいものを食べ、美しい所へ行ってみたいものである。 やればできる！



「阿蘇の菜の花」想像図



一心業の大桜

菜の花プロジェクトの成功を祈って！（出会いをつくる菜の花色の名刺）